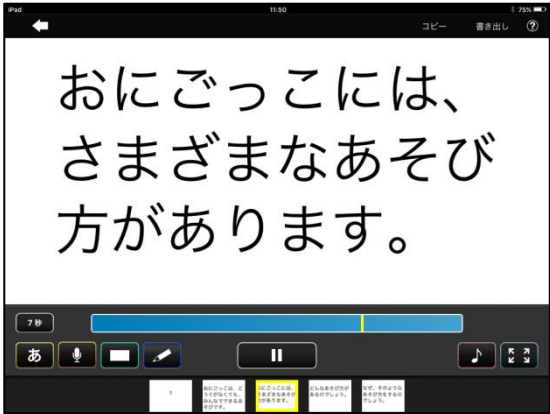


◆きれいな発音で音読をしよう

1 対象児童生徒(対象学級)の実態	
<ul style="list-style-type: none">・聴覚障害のある小学部2年男児2名の学級。・二人とも補聴器をつけて40dB程度である。A児は聴覚をよく活用しており、学年相当の学習ができています。B児は発達障害の傾向があり、語彙が少なく、言葉の意味がとりにくい。そのため拾い読みになりがちである。	
2 指導目標(児童生徒同士の間関係やコミュニケーションの促進に関する目標)	
<ul style="list-style-type: none">・きれいな発音で教科書を読む。・「はじめに」「次に」などの言葉を意識して、自分の考えを発表しながら正しい順番で文をつなげる。	
3 取り組みの中心となる教科・領域等	
<ul style="list-style-type: none">・国語科(光村図書2年下「しかけカードの作り方」)	
4 使用したアプリ、周辺機器	
<ul style="list-style-type: none">・ロイロノート・テレビ・HDMI変換アダプタ・HDMIケーブル	
5 指導の経過及び児童生徒の変容	
<ul style="list-style-type: none">・授業開始時は教師の読みを録音した教材を使い、その音声に合わせて読むようにした。・教師の声ではなく、自分たちで録音したいと言うようになり、段落ごとに分けて録音することにした。・よい発音で朗読しようとしてA児の発音にB児が漢字に読み仮名をふることを提案したり、「こうしたほうがいいよ」と範読する場面があった。・録音した音声を聞いて、気になることがある時は「もう一回」と何度もチャレンジするようになった。	
	
6 指導のポイント(変容の要因、効果的な支援方法等)	
<ul style="list-style-type: none">・録音したものをその場で聞くことができるので、客観的に自分の読みを聞くことができた。聞くことで直した方が良いところを判断して、次はきれいに読もうという意欲につながった。また、B児からの助言があったために、A児は教師からの助言よりも素直に聞くことができた。	